

お知らせ

セミナー開催予定

農業総合センターでは、研究成果を農業経営に活かしていただくため、農業者の方々や農業関係団体、市町村等の方々にお知らせする場として技術移転セミナーを開催しています。

令和2年度はこれまで専門分野や品目ごとに15回開催しました。令和2年度後半は以下のセミナーを予定しています。セミナーの日時や開催場所等は今後、ホームページ等でお知らせします。皆さんの参加をお待ちしております。

開催時期	内容
11～1月	「(仮)研究成果発表(畜産)」 令和元年度に得られた畜産分野の普及・参考成果の紹介
1～2月	「(仮)施肥設計支援システムを活用した効率的な肥培管理」 施肥設計と肥培データの見える化を支援するExcelファイルの活用方法
3月上旬	「(仮)研究成果発表」 令和2年度に得られた各分野の普及・参考成果等の紹介

【企画経営部企画技術科 024-958-1700】

ラウンド農ふくしまWebの紹介

県民の皆さんへ農業総合センターの取組をお知らせするため、ホームページ上で出来事や仕事内容などを御紹介するページを作成しました。

これまでは年3回広報誌「ラウンド農ふくしま」として発信していましたが、時期を逃すことなく、ホームページでタイムリーに多くの方々へ情報発信しています。こちらのページもぜひ御覧ください。

ラウンド農ふくしまWeb-センター通信-

田んぼの学校で小学生が稲刈り体験！

9月29日、青空の下、田んぼの学校(第3回目)を開催しました。毎年、当センター近くの高倉小学校の5年生に田植えや除草、稲刈りなどを体験してもらい、家づくりを通して農んでもらう食育活動です。稲の持ち方や稲の束ね方などの指導を受け、みんなで一生懸命1枚の田の稲刈りに取り組んでいました。に楽しみながらも手作業の大変さを実感した様子でした。



【令和2年10月8日 企画経営部】

「ラウンド農ふくしまWeb」と検索するかQRコードを読み取ってください。



【企画経営部企画技術科 024-958-1700】

「農業総合センターだより」で掲載して欲しい記事、日頃知りたと思っている技術などの希望がありましたら、企画技術科までお寄せください。御希望は電話、FAX、メール、郵送いずれの方法でも受け付けます。(次回は令和3年2月の発行を予定しています。)

農業総合センターだより 第1号
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200a>
 E-mail:nougyou.jouhou@pref.fukushima.lg.jp

編集・発行：福島県農業総合センター
 〒963-0531
 福島県郡山市日和田町高倉字下中道116番地
 TEL 024-958-1700 FAX 024-958-1726

農業総合センターだよりはホームページでも公開しています。

農業総合センターだより

第1号
(2020.11)



- ・発行の挨拶 P.1
- ・「福、笑い」作況報告 P.2
- ・研究紹介 P.2
 - ースタンプ板で加害獣種特定ー
- ・研究紹介 P.3
 - ーキュウリの機能性成分の見える化ー
- ・技術情報 P.3
 - ー早期耕うんのすすめー
- ・お知らせ P.4

発行にあたって

農業総合センターは平成18年4月の設立から福島県の農業振興の拠点として、幅広い研究に取り組み、得られた成果については、技術移転セミナーなど様々な場面を通して紹介してきました。開所から15年目を迎え、これまで以上に多くの農業者の方々や農業関係者の皆さんにセンターの有する技術情報をお伝えするとともに、センターと皆さんの距離を縮め、交流を深めたいとの思いから、新たに「農業総合センターだより」を発行することとしました。本誌では、センターの研究内容や成果のほか、アグリカレッジ福島の研修情報など、農業経営に役立つ技術情報などを提供してまいります。本誌の発行が少しでも農業者の皆さんのお役に立つことを願っています。

福島県農業総合センター 所長 武田 信敏

～新品种「福、笑い」の今年の作況をお知らせ～

福島県の新しいオリジナル水稻品種「福、笑い」は、大粒で適度な柔らかさと粘り、そして甘みが特徴の良食味品種です。

農業総合センターでは「福、笑い」の生育や作柄を詳しく調査しています。

今年度は、「コシヒカリ」と比較し成熟期は並みから5日遅く、穂数は同等でした。倒伏もなく、籾は鮮やかな黄金色の熟色となり、収量・品質・食味とも好成績が期待されます。

さて、「福、笑い」は、福島県オリジナル米生産販売推進本部に認定・登録された「研究会」だけが栽培出来ます。「研究会」がGAPに基づき、食味を重視した栽培を行い、出荷時に厳しい基準をクリアした米のみが流通する仕組みです。令和3年度に「福、笑い」を栽培できる研究会の登録申請の受付は12月に行われます。農業総合センターでは来春までに栽培マニュアルを作成し、農家の良食味米生産を支援します。



「福、笑い」成熟期の草姿(2020年 本部)

【作物園芸部稲作科 024-958-1722】

研究紹介

スタンプ板で農作物への加害獣種を特定！

効果的な鳥獣被害対策のためには、加害獣種に合った対策方法を実施する必要があります。足跡は、獣種を特定する方法の1つですが、鮮明な足跡は少なく、獣種判別が難しいのが現状です。そこで、市販されている黒セルスポンジとベニヤ板、白色粉末(炭酸カルシウム)で作成したスタンプ板(1,000円程度、図1)により足跡の採取を試みました。ベニヤ板に黒セルスポンジをガムテープ等でしっかりと貼りつけ、獣道や畝間等の動物が通りやすい場所にL字ピン等で地面に固定し設置しました。その結果、獣種判別に利用できる鮮明な足跡が採取できました(図2、図3)。

被害が見られるけれど、加害獣種はわからないという方は試して見てください。なお、雨天時には、足跡が不明瞭になるため注意が必要です。

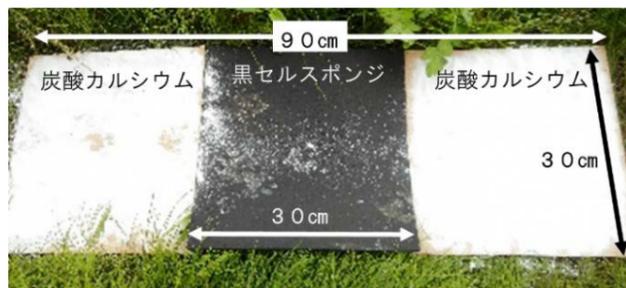


図1 スタンプ板の設置状況



図2 スタンプ板で採取した足跡とイラスト(アライグマ)



図3 スタンプ板で採取した足跡とイラスト(イノシシ)

【浜地域農業再生研究センター 0244-26-9562】



成果詳細はこちら

研究紹介

県産農林水産物の機能性成分の「見える化」

～きゅうりのビタミンCはどこにどれだけあるの?～



成果詳細はこちら

この研究は、農産物の「どこに、どんな成分が、どのくらい含まれているのか」を調べ、より視覚的に分かりやすく、おいしさや機能性の成分を「見える化」することを目的に行いました。この結果は、農産物の消費者へ向けたさらなるPRや、機能性成分を含む部位を利用した加工品開発など、様々な効果が期待されます。

今回は福島県を代表する野菜「きゅうり」の成分を「見える化」しました。きゅうりには、カリウム、カロテン、ビタミンCなどが多いことが知られています。今回着目したビタミンCは、骨や腱などの結合たんぱく質であるコラーゲン生成に必須の成分であり、また、近年では抗酸化作用についても注目され、様々な病気の予防に効果が期待されている成分です。

では、ビタミンCはきゅうりのどこに多く含まれているのか?分析の結果、種を含む部分に最も多いことが分かりました(図1)。さらに細かい局在(どこに多いのか)を分析した結果、種の周りと果皮の内側に局在することが明らかとなりました(図2)。

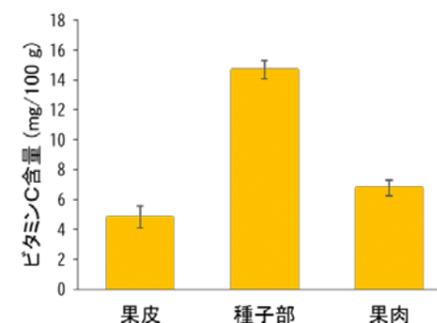


図1 きゅうりの部位別ビタミンC含量

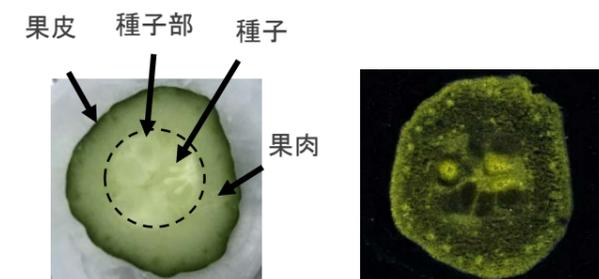


図2 きゅうりの断面(左)とビタミンC測定結果(右)
(黄色の部分にビタミンCが存在する)

この研究で利用したイメージング技術は、試料の切片を測定し、結果を重ね合わせることで成分の局在を画像化することができます(福島大学食農学類の超高速食品機能成分質量イメージング装置を使用)。

試料の断面に測定結果を反映させることができるので、その画像と定量分析のグラフを合わせて見ることで、“どこに何がどれだけあるのか”消費者にも一目で分かるように示すことができます。今後、栽培条件や加工処理による成分の局在変化を調べたり、品種ごとの機能性成分などを調べたりする研究にも応用し、県産農産物にさらに付加価値を付けるための研究に活用していく予定です。

【生産環境部流通加工科 024-958-1719】

技術情報

稲刈り後は早めに耕うんしましょう

稲わらのすき込みは堆肥施用と同等の土づくり効果が期待でき、米の品質向上につながります。また、交換性カリの安定した供給源(10aあたりカリ約12kg相当)となることから、放射性セシウム吸収抑制対策としても重要です。

稲わらの施用では、腐熟促進とカリ流亡防止のため、早めの時期にすき込みを行います。地表に長期間放置した場合、稲わらからカリが流亡して、カリの供給効果が低くなってしまいます。

すき込みの深さは、腐熟促進のため5~10cmの浅耕としてください。ただし、湿田での稲わらすき込みは、ガスわきの原因となるので堆肥を施用します。なお、腐熟促進効果がある土壌改良資材(ケイカリン等)や石灰窒素を施用することで、すき込み後の稲わらの分解が促進され、ガスわきが少なくなります。

【生産環境部環境・作物栄養科 024-958-1718】